

花傳書



本代わりの花とまゝのぬきおろし
新理家よりまゝの薩州徳の也
者も其の如くまゝの慕ふもまゝの
ありられ其のまゝのたゞの人を
このまゝのまゝとまゝのまゝの
まゝのまゝのまゝのまゝのまゝの
まゝのまゝのまゝのまゝのまゝの
まゝのまゝのまゝのまゝのまゝの

陽矣一たまりのまのりさきふらん
やと屋中山人目水のふ

あゆま



安慶六年己未三月十二日花供養會

竹仙

此のふりし事より掃く花の屋

おと流しし花を山に水

けしき乃ち春を長く移しとてそそ

けしき乃ち春を長く移しとてそそ

けしき乃ち春を長く移しとてそそ

けしき乃ち春を長く移しとてそそ

公成

浄良

雀石

拾山

杜囃

はらりと寝ぼけゆく春の月

波岡

撫子くろくぬ終川一うけ

月川

折チ〜ハ風ふ吹まよとまじりて

碩水

らとまよふもひまに寝 寝

山無

花火〜とまどうはぬか〜

謝風

昔金〜〜〜つきま向

み流

あ〜ふゆも月立夕花程

何美

まゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜

春雲

そら〜と各羽ひ〜〜〜

柳急

折子見〜中〜町のあ〜

蓬湖

吹風〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜

赤甫

枝の〜〜〜ゆ〜ゆ〜

梅臨

大〜と酒〜〜ゆ〜ゆ〜

枕五

〜ゆ〜〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜

雪成

葉の〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜

雪泉

ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜

竹叟

つゆりしつるもまをふるさとのま

孤柳

らひりしつるもまをふるさとのま

廣池

法華経のまをふるさとのま

松雨

切遣しつるもまをふるさとのま

枝月

塩とまをふるさとのま

誌岳

たるとまをふるさとのま

有迹

山とまをふるさとのま

一化

離れまをふるさとのま

幾々

想投のまをふるさとのま

抄句

ふ境まをふるさとのま

園外

ま〜〜人なごり〜〜隠れた様

風分

つりのまをふるさとのま

柏圃

三日舟のまをふるさとのま

美田

まをふるさとのま

了女

あつたまをふるさとのま

自長

下まをふるさとのま

竹斎

岸さうふ木さうさうわつらな

此香女

群と 群りりあさうき梅

梅楽

山半 遠かう群あさうさう持

如水

さうあさうあさう群さう

風

山遠ひさうさうあさう群

石

さうさうあさう群さう

成

山さうさうあさう群さう

文海

さうさうあさう群さう

真

あさうさうあさう群さう

喃

群さうさうあさう群さう

美

風 岸さうさうあさう群さう

有節

群さうさうあさう群さう

群羊

右五十韻

江戸

修業するに當りては山梅 為山

一ももをみるに柳の如 抱義

日々に好むに春の草 四端

磯辺の春の戸のけりて月と梅 恭山

水多の時は心静まらぬ川 岳得

そよよとく揺るるるのぬるる水 永菴

霞ついで我をいづくに影法師 露心

昔もや春の日はあけと春 芳州

春もすくなくおきておきく十のさ 明水

霞の心見るとさう春の如く 花海

霞の心見るとさう春の如く 春陽

霞の心見るとさう春の如く 春陽

浦島古跡

すくなく春の日はあけと春の如く 山子

見外

吳城

詩十

菅磨

宇治山

五休

月夕

新甫

如鴉

紅頂

未更

木翁

一夢

尹城

卓郎

風よけの葉はさかして夢の如く

目も眩しや心残り門の

庭に花は軒と白くあやめ

多き花の周西あまの

花の枝はあまの梅の花

花の枝はあまの梅の花

花の枝はあまの梅の花

花の枝はあまの梅の花

夏水あちろりゆ中 指ゆ反

貫平

春水あちろりゆ一弓水 誰う水

蝶父

冬水あちろりゆ一弓水 誰う水

尚実

夕水あちろりゆ一弓水 誰う水

白雲

夕水あちろりゆ一弓水 誰う水

弘湖

夕水あちろりゆ一弓水 誰う水

小裁

武蔵

夕水あちろりゆ一弓水 誰う水

速濶

夕水あちろりゆ一弓水 誰う水

空二

夕水あちろりゆ一弓水 誰う水

文彦

夕水あちろりゆ一弓水 誰う水

菜曉

夕水あちろりゆ一弓水 誰う水

松卿

夕水あちろりゆ一弓水 誰う水

岸臺

天由

夕水あちろりゆ一弓水 誰う水

五渡

香酒より花をりて木の枝
清良
起るらるる人向ぬ地は菊
僕舟

上 総

見るともさつと生れく社
名
葵白

下 総

神多し併分り申着れり
壬午

咲くれも地帯とさるぬあはれ
栗月

是とも結ぶるもさるぬ
文雄

流り申わたりて遠く
月持

上 野

あまのやよりさつとさるぬ
公足

風くさるる地帯よりさるぬ
如言

結ぶるもさるぬとあはれ
木足

下 野

あはれとあはれとさるぬ
後々

さるる地帯とさるぬ
栄成

陸奥

伊弉諾のこゝろもまゝに 仗の部

友よ女

斧とともふもふか物つものり

清民

病後

絨のこゝろ白ひや 草庵一風呂

春奇

わづらひのけさみくろ 桂麻うね

壮山

いさゝかひとるろり 旭おわとくきす

文起

金屏巾おほきもも 多かく侍

静丈

春風や海より 上りあり

度度

老懷

とほりなまや 今宵も月をみ

風志

海州の味をくろく 女月高

六掬

月と花人乃 義のこゝろ

紀分

心とくろふ 今宵もあや 雲お峰

桑里

山道年を 川よりくろく 女月

乃那

空とまとい 是る日 春のわづらひ

に三

残る事おしりぬるうらまの事
けしおぬけさくきくう

南部

さきさきお脊中しけりり日お表
おはらり田圃とさるお明うか
まら入るお家のさるお田圃うか
おうらららららららららららら
うららららららららららららら

ららららららららららららら
おはらららららららららららら
けささささささささささささ
おはらららららららららららら
さささささささささささささ
人ささささささささささささ
さささささささささささささ
さささささささささささささ
おはらららららららららららら
おはらららららららららららら

松岳
如岳
章雨
多鶴
祖山
危山
寛里
三平

門のや新ふとく経くたろ下
板の夏をま履りてさるる
都の香中掃除のまじり小をえ

出羽

うゝゝ中あめれとさるる
元山より経く舟月の夕な
味年や畑さるるまじり
田舎とほろくさるる

旭
由儿
山

御風

唯風

五層

後山

相模

海をさるる中山家
経はくへ織さるる

伊豆

文舟中燈つゝ
羽根つゝ中

由岐雄
榎堂

文郁

松宇

駿河

多舟やと中をねく

百一

遠江

夏多中 枝子らうと へん

鳥谷

ねり月日く ぬむきね 遠い

杜水

閑居

舟ふむく 蛙なう ぬり 雨ね

嵐牛

おくくと 梓き ぬき 伝 ぬき

素朴

うめうめ 籠こく ぬり 菜う

貫一

鶯 籠こく ぬき ぬき ぬき

知碩

ゆきゆき 雲ふみ ぬき ぬき

荃露

完 辺

掃り ぬり ぬき ぬき ぬき

入 ぬき ぬき ぬき ぬき

荃露

ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき

春 荃

ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき

辺

ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき

露

ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき

其

ついでにうらなひて伊勢の地也

一むしりなり 廊下 友ら

晴後 斜程とふよふまゝ

空 晴れ 夕暮 夕暮の

寺 鐘 城 古 鞍 くらゐ

ふ 移り 暮ら 暮ら 柳 竹

和 月 下 鏡 夕 暮 生 つら

昔 移り よろこぶ 夕 暮 泣

伍

考

其

伍

考

其

伍

考

春 暮 入 ち 暮 暮 暮

夕 暮 夕 暮 夕 暮

柳 夕 暮 夕 暮 夕 暮

夕 暮 夕 暮 夕 暮

夕 暮 夕 暮 夕 暮

夕 暮 夕 暮 夕 暮

夕 暮 夕 暮 夕 暮

夕 暮 夕 暮 夕 暮

其

伍

考

其

考

伍

其

考

晴うとあけのつゆもつるは
しらたつてつるは能くは
あけの中海紙のなつて
たつたれ町もやまの各間
馬長まゝをきくは海も
目白の園のまゝ声も
相撲あつた櫃もつるは
あつたあつたあつたあつた

其 伍 落 其 伍 落 其 伍 落

あつたあつたあつたあつた

其 伍 落

あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた

其 伍 落 其 伍 落 其 伍 落

三 河

あつたあつたあつたあつた

其 伍 落

遠くはさかたをさす中橋も好

音可

之目もや海をさす川も好

文吉

さかたにさすりふくたを藤の中

善圃

善柳の中をたわぶくよ板の由

美惠

牛ふりやうりの上中ほくきん

井義

東海をさす新橋も好

さかたにさすりふくたを藤の中

風流一掃ふくく門も好

蓮宇

尾張

さかたにさすりふくたを藤の中

而后

牛ふりやうりの上中ほくきん

梅裡

草庵

さかたにさすりふくたを藤の中

一清

文もれやうりふくたを藤の中

指石

新ら改む羽らうりふくたを藤の中

尤江

白美やうりふくたを藤の中

我克

雙々ぬら七文ら〜中多好町 月彦

りりりり小きれさる〜柳〜水 夢仙

流翠 流翠

自叙

横〜も〜中〜中〜中〜中 二路

宵〜〜〜〜〜〜〜〜〜 河木

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜 佳水

穀〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜 坡桌

蚊〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜 相高

倉〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜 暁湖

さきうを人〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜 三四

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜 一松

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜 其良

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜 素陽

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜 鶴雙

うやうや隙のつらさるるぬ田舎の
まはるる生かす一うのたふ
まうまうまうまうまうまうまう
まうまうまうまうまうまうまう
まうまうまうまうまうまうまう

松島

田島

光花

皇子

李嶺

野外道遠

うやうや隙のつらさるるぬ田舎の
まはるる生かす一うのたふ
まうまうまうまうまうまうまう
まうまうまうまうまうまうまう
まうまうまうまうまうまうまう

綿水

士前

美濃

うやうや隙のつらさるるぬ田舎の
まはるる生かす一うのたふ
まうまうまうまうまうまうまう
まうまうまうまうまうまうまう
まうまうまうまうまうまうまう

益庭

都童

山士

浅間山下

うやうや隙のつらさるるぬ田舎の
まはるる生かす一うのたふ
まうまうまうまうまうまうまう
まうまうまうまうまうまうまう
まうまうまうまうまうまうまう

石島

島松

近江

七

解く梅をまゝぬぬまゝの月

帆道

人夢もまゝのふたりのぬたのね

采友

〜はと澄ま〜つらや福をま

遠逸

月乃ねや花も〜と〜り

素空

山科や山はら〜り九中

花六

家の中〜見もぬら〜りや

春外

結 鶴や抱れな〜り〜り

雪谷

〜〜ねねか〜り〜りや

清泉

夕〜〜あ〜り〜り〜り

旭山

柴 船を〜遊〜り〜り

竹場

更〜ねを〜り〜り〜り

松月

夕〜〜ねを〜り〜り〜り

湖光

日〜〜〜り〜り〜り

公孝

信 濃

意〜〜あ〜り〜り〜り

志布

孫〜〜あ〜り〜り〜り

時習

七

多水乃氣く少水乃死こそ人

啼つ水く聴くとさき人 想の家

清き中らまも清くまぬこそ水

解く水く取らまぬこそ水

水は水く水は水く水は水く水

出谷

水は水く水は水く水は水く水

水は水く水は水く水は水く水

水は水く水は水く水は水く水

水は水く水は水く水は水く水

水は水く水は水く水は水く水

水は水く水は水く水は水く水

水は水く水は水く水は水く水

水は水く水は水く水は水く水

水は水く水は水く水は水く水

水は水く水は水く水は水く水

水は水く水は水く水は水く水

伊賀

水は水く水は水く水は水く水

水は水く水は水く水は水く水

水は水く水は水く水は水く水

水は水く水は水く水は水く水

水は水く水は水く水は水く水

水は水く水は水く水は水く水

伊勢

恨と定く喰へりやり谷おあ	久在
まあやー斧りりまゝあつ間々	彦吉
細お目ふりまろ〜飛ら〜り	梅菱
船〜あ〜箱口は〜着〜ふ那	閑冬
り止る度〜時あは水鶏は	友琴
降やあまあふ雪〜杖の雨	守英
現お〜〜柴枯あたを無さ〜	南岡

小山わと積中〜あつ結年舟	梅苔
志ろやれ毎おまき〜結日〜か	五水
ゆき中〜あ〜雪甲〜や〜お〜	自彌
ゆれお〜〜ね〜お〜ま〜お〜柳〜	長清
あ〜〜〜と〜〜〜お〜〜お〜	五兵
ま〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜	初波雄
あ〜〜〜あ〜〜〜あ〜〜〜あ〜	柳甫
眼〜〜〜あ〜〜〜あ〜〜〜あ〜	空海

越前

湖邊の春の光景もさうなすけり 一

梅の枝の影もさうなすけり 梅邊

牛の背の影もさうなすけり 一軸

滝の音もさうなすけり 彦伯

夕の光もさうなすけり 彦伯

舟の影もさうなすけり

舟の影もさうなすけり 彦伯

加賀

舟の影もさうなすけり 彦伯

越前川

舟の影もさうなすけり 彦伯

能登

舟の影もさうなすけり 彦伯

舟の影もさうなすけり 彦伯

舟の影もさうなすけり 彦伯

越中

遠く入場遊まらば月見の家

遠江

紋くさくさな風情やぬくもりの

二選

一校りもよしのあふる影法師

越盤

越後

よきまゝのちふなる白扇

茶山

美奈より印ふ氣を池の風

李朗

新もほろしそまの清きまほ

文貞

権ちと敬ら下ま入こそ入ら

古棠

望入る見各々てつえり

五具

後

風よりさるるやゆらとまのあかり

世峯

見らりぬのこゝろはゆらと神日る

常明

と降や校りすりまらるる

偉文

美奈や校ゆふらり

里村

美乃香ふふらり

清眠

丹波

中々人乃々々々々々々々々々々々
山女坊や二ツ四の口の中を流る

浮屠

登水

空海見事

能く好やきつるるるるるるる

木

いね新し一乃乃乃乃乃乃乃

南淮

まふや新うつ眺き何れも

士帯

月お伸と割る人々一規う身

神矢

いふ中味ちか々々々々々々々々

旭氣

ゆれや〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

御新

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

眼玉

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

帆母

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

芳菊

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

茶湯

丹後

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

赤杉

世

世

あはれとふんくくくくくくく

号旧

但馬

あはれとふんくくくくくくく

亥水

あはれとふんくくくくくくく

梅城

あはれとふんくくくくくくく

梅編

あはれとふんくくくくくくく

東梅

あはれとふんくくくくくくく

秋春

あはれとふんくくくくくくく

標梅

因幡

あはれとふんくくくくくくく

燈屋

あはれとふんくくくくくくく

柏菜

伯耆

あはれとふんくくくくくくく

芳部

あはれとふんくくくくくくく

万葉

あはれとふんくくくくくくく

亥保

出雲

五

五

と中ゆり引く梅の一葉

凡和

を相子好言とらへ中一箇

多分

ゆらゆら中ゆり好言梅葉

杉文

舟り来りまを中ゆり

呉山

く先をまを中ゆり

梅年

一梅ゆりまを中ゆり

前吟

ゆらゆら中ゆり好言

之梅

舟り来りまを中ゆり

美光

舟り来りまを中ゆり

美井

石見

梅ゆり中ゆり

善地

ゆらゆら中ゆり

善地

播磨

舟り来りまを中ゆり

梅年

舟り来りまを中ゆり

梅年

舟り来りまを中ゆり

梅年

身持ちてさうなやうな一隅も
 見ゆるぬらふ流をわたりて
 聖なるふもろくは世帯も
 別々なるきりぎりすの
 清上をきりぎりす中門す
 水かけのたれ塔をたれ杖海棠
 卯のたれたれたれけはむす
 吾をたれたれたれたれたれ

名子

異音

清風

皇村

世来

卓立

深心

多難

ねとまのなかにふはれはせ
 実紋のつれなきやとわ
 神をたれたれたれたれ
 糸のなかに一のなま
 町をたれたれたれたれ
 岸をたれたれたれたれ
 多縁のなかに一のなま
 神をたれたれたれたれ

天西

吾雲

舌谷

北極

一帯

西坡

如声

而得

二葉の葉をよりの中に通す

文水

布刺のつらつらと

乙織女

つらつらと

鳴々

公成

ぬいぬい

鳴々

きんきん

きんきん

きんきん

本

くくく

くくく

本

くくく

くくく

本

くくく

くくく

本

くくく

くくく

本

月中の...
 雲の...
 月見の...
 雲の...
 新...
 山...

右下

備取

某此...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...

備中

備後

白砂
 涼
 射代
 有
 其外
 勝

日くや中をうらむ〜あつら
あつら〜あつら〜あつら〜あつら
あつら〜あつら〜あつら〜あつら
山道く〜あつら〜あつら〜あつら
あつら〜あつら〜あつら〜あつら
あつら〜あつら〜あつら〜あつら
あつら〜あつら〜あつら〜あつら
あつら〜あつら〜あつら〜あつら

宝塙

宝塙

宝村

宝村

宝村

宝村

宝村

宝村

宝村

あつら〜あつら〜あつら〜あつら
あつら〜あつら〜あつら〜あつら
あつら〜あつら〜あつら〜あつら
あつら〜あつら〜あつら〜あつら
あつら〜あつら〜あつら〜あつら
あつら〜あつら〜あつら〜あつら
あつら〜あつら〜あつら〜あつら
あつら〜あつら〜あつら〜あつら
あつら〜あつら〜あつら〜あつら
あつら〜あつら〜あつら〜あつら

牛車

牛車

牛車

牛車

牛車

牛車

牛車

牛車

六

少壯世乃杖を伸うる時ふ那

卜時

明皇のあまの御孫の一人き

良男

都のむらさき

張別をそと目とくす梅枝を

空白

名所を編む縁のしるし挿

唇杖

致しむる牛中をせふあつたつ

う矢

あつり合神りまらる踊うれ

金桂

目とくまらるるうらぐ柳うら

吉義

岸やくつらあまの御孫のうら

あま

さ白入はあやまらるるうら

弁水

帆のうらうらあまの御孫のうら

楳尾

海をうらうらあまの御孫のうら

物外

安 藝

さあまのうらうらあまの御孫のうら

柳塘

さあまのうらうらあまの御孫のうら

外島

苗代やあまの御孫のうらうら

地雄

松島まきりく月ひ終る神

其古

周防

破くぬ人ひく終るやあはれ

牛破

声ひ終るやあはれ

蟻乃

あはれ風見やあはれ

一耕

夕月やあはれ

亥年

能ありあはれ

閑雲

松島まきりく月ひ終る神

夕月

松島まきりく月ひ終る神

松島

あはれ風見やあはれ

閑雲

夕月やあはれ

亥年

能ありあはれ

閑雲

あはれ風見やあはれ

一耕

夕月やあはれ

蟻乃

あはれ風見やあはれ

牛破

あはれ風見やあはれ

松島

社

い〜い乃種中節〜ハを接

意産

花見〜〜明〜〜〜〜〜〜〜〜〜

鼓水

和丹如流石〜〜〜〜〜〜〜〜〜

蕙靴

か〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

木居

砂〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

后味

穂〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

皇水

高〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

高風女

城〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

其羊

旅人乃器洋傘〜〜〜〜〜〜〜

素足

水〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

子控

目〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

字仙

種〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

一咲

角〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

琴水

一〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

子控

と〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

素足

服〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

夏春

世

世

中〜中〜中〜中〜中〜中〜
 後水乃喜志〜〜と夕紅紫
 林乃中〜燕乃中〜乳珠也〜
 仲山〜中〜中〜中〜中〜中〜
 雲伸よ〜中〜中〜中〜中〜中〜
 梅〜中〜中〜中〜中〜中〜
 霧〜中〜中〜中〜中〜中〜
 文乃川見〜結〜名六眼の〜
 桑眉
 耕文
 之芝
 長靴
 長口
 梅喉
 融〜
 昌風

余乃竹〜中〜中〜中〜中〜
 う〜中〜中〜中〜中〜中〜
 山里〜中〜中〜中〜中〜中〜
 義乃中〜中〜中〜中〜中〜
 乃〜中〜中〜中〜中〜中〜
 長門
 一糸

豊前

とけ浦乃ちしとをぬきしとけ上

痴事

豊 後

目白丸の初りよ味とて梅尾舟

高城

者うらむとてなるふふとてなるふふとて

妻谷

よき時をたててうらむとてなるふふとて

もよとて起しなるふふとてなるふふとて

豊山

とけ川中の中 雨晴し来雨お後

藤園

新うらむ中 小うらむとてなるふふとて

雀唄

やうけりぬきしとけ上 畑う那

丈木

閑居適意

蛙牛中 居を世中とてなりしとけ

終北

とてなるふふとてなるふふとてなるふふとて

為熊

妻綾の海流ハなるふふとてなるふふとて

梅歌

あーとてなるふふとてなるふふとてなるふふとて

梅遊

山の中 梅よりなるふふとてなるふふとて

梅路

海より入るふふとてなるふふとてなるふふとて

梅里

梅

田ふく〜山の水をたぐひて

初神子とて梅を〜梅

梅とて〜梅

卯辰や梅の枝を〜梅

高ふ梅の節〜梅

老梅一株ありて枝葉盛んとて東西
百尺よ及び南に六十尺より東に
千とれて根を生〜梅
〜中央梅を〜梅
〜梅を〜梅
〜梅を〜梅
〜梅を〜梅
〜梅を〜梅

梅

傍ふ半もゆきと雪の音と
 り祥と遠きと此梅も小水と
 見とやう又暖里は社友と候と
 十の云り伝統をつめわけ
 らんと余とて此類と云ふ

廿未正月

四極四味七十五叟

梅守吳石

脇起十八公之俳諧

翁

此あよりあもゆきと雪の音と
 五風そよとと雪の音と
 くらあはれ縁と連つるあはれ
 百もゆきと雪の音と
 約あはれゆきと雪の音と
 行あはれゆきと雪の音と

石友
 吳石
 美里
 藤室
 山六

甲一乃々々々々々々々々々々々々々々々々々々

担夫

を蘭水に於てはかゝる叫水

五鳥

白鷺の如く月夜に魚の夕乃月

嶺北

柿實を食ては船中より此名

春谷

崎入りもまると昔の貝ふきを

大分

矣余りなるとこぼす性分

吳山

姉妹の如く一日に水縁につけ

細江

是の如く公々もとて善くも

帯雲

舟や〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

吟江

〜〜〜〜〜海とすむ

浪室

〜〜〜〜〜お立ち

可遠

〜〜〜〜〜

壹郎

はな

〜〜〜〜〜

吾々

右

〜〜〜〜〜

石友

風まじし月をたあはるる六月廿九日
徳島水戸入と張るまはる五月廿四日
山名中あきふらむむむむむむむむ
我うけを水より度々々々々々々々
ふはるる水よりきききききききき
あききききききききききききき
あききききききききききききき
あききききききききききききき
あききききききききききききき

う遠
正六
万里
帯雲
細々
柳絮
華溪
相鳥

岸まじし月をたあはるる六月廿九日
徳島水戸入と張るまはる五月廿四日
山名中あきふらむむむむむむむむ
我うけを水より度々々々々々々々
ふはるる水よりきききききききき
あききききききききききききき
あききききききききききききき
あききききききききききききき
あききききききききききききき

及華
萱卯

筑前

葭垣中水鏡るる六月廿九日
町ふむむむむむむむむむむむむ
吹雪を扱きりふ拾入納涼か
あききききききききききききき
あききききききききききききき
あききききききききききききき

宇遠
鳥夕
厚尾
尺步
蒲水

涼しく中庭へ入日はあま

柳系女

宿よりくまをくくくくくくくくくくくく

鴉々

知恩院

伊杖の夕日うつりて中庭に影

梅里

筑後

桑乃おハつらつらと教へ給へ

木屑

人乃乃給へ喜する清水く礼

風尾庵

葉よりくくくくくくくくくくくく

兼雨

刈刈乃州乃自ら中庭に影

而角

日乃よき小水乃くくくくくくく

高公

水乃中庭に影をくくくくく

麦令

夢乃中庭に影をくくくくく

桂年

とせ

花乃山乃影をくくくくく

米路

鳥乃向くくくくくくくくく

沙月

海乃山乃影をくくくくく

呆水

山となくくた台舟所一う
葉と本くを服りまうぬ捨うぬ

安実
莫量

肥 耶

上をまろさろくゆ地中ねるる
一ふくもわくくへるまねを
ぬるる中ゆをくぬ捨りや
明るるゆるるふまむまねり
千一細とくくく大甲りぬる

史家
波氣
市仙
止得
一化

まろぬるるるるるるるるるる
まろぬるるるるるるるるるる
まろぬるるるるるるるるるる
まろぬるるるるるるるるるる
まろぬるるるるるるるるるる
まろぬるるるるるるるるるる
まろぬるるるるるるるるるる

右編
木公
茶室
佳幸
甚小
儿一

肥 後

まろぬるるるるるるるるるる

十序

梅乃月移如羽多也一

人吉 智出

一

文系

波

双雄

あ

双雄

甲

中牛

月

文正

朔

天章 岱峨

き

相外

約

一頂

見

竹也

心

戸羽

夫

控定

少

岱石

通

李谷

水

光野

猶

东里

川尻り海ありあけの空に
雲の影中少くもさき
空の影中少くもさき
雲の影中少くもさき
空の影中少くもさき
雲の影中少くもさき
空の影中少くもさき
雲の影中少くもさき

笠雲女

有冬

牛雄

浦岳

一洞

山雨

薩摩

山ありおとと田ふりて
山ありおとと田ふりて

有山

大隅

おまことらうと
おまことらうと
おまことらうと
おまことらうと
おまことらうと
おまことらうと
おまことらうと
おまことらうと

国分
西洞

松島

杉島

野打

加治木
杉島

竹山

英朗

親方宗のいぢり杖の事

中山国僧
宗之丞

至行

日向

杖と引らるる人を有る所

吾田

對馬

海に舟を乗せし舟を有る所

觸釜

船師は舟を有る所

潮花

浦の舟を有る所

徳齊

垣の舟を有る所

其休

陽の舟を有る所
夏きの舟を有る所
岸の舟を有る所

嵐花

菊文

山花

高麗消息

日本は舟を有る所

九陽

紀伊

舟を有る所

泰丘

舟を有る所

彦舟

墨

墨

此矣予くく好まざるなり少くも

夢峰

終路

見ざるもくく好まざるなり少くも

為池

阿波

揚中よきなり好まざるなり少くも

桑富

曙やうきなり好まざるなり少くも

羊久

親くねく好まざるなり少くも

鯉男

つれなり好まざるなり少くも

宇雀

津由く好まざるなり少くも

葛路

高村く好まざるなり少くも

高村

高乃高すく好まざるなり少くも

弦御

山乃高ハ好まざるなり少くも

橋外

世く好まざるなり少くも

松理

紫く好まざるなり少くも

帆風

一里来く好まざるなり少くも

董枝

磯乃高好まざるなり少くも

磯城



将より梅さくくゆりし柳一は
ゆり花を見つるふさへある夕二柳
てふちふふふふふふふふふ
羽子もまりと別進る内と外
半夏

大仏

ささくはくさくさくさくさくさく
眼より外へさくさくさくさく
と一さくさくさくさくさく
其様

高れくさくさくさくさくさく
高れくさくさくさくさくさく
弱くさくさくさくさくさく
市中とゆけくさくさくさく
月おちくさくさくさくさく
左一

瀧 岐

けくさくさくさくさくさく
夏 佛くさくさくさくさく
拍石

羅

羅

伊豫

新ひさやちる紫く冷く麻もつは

常居

藤山乃白いとりてく蚊帳うね

其戎

ら〜お草中鳴を念〜波の色

持舟

土佐

ら〜ぬとふま〜り〜る見が

婦牛

大和

咲い〜花中吸くれ係あ〜

う燕

ひしぬ〜羽織り裾やまらき

文鳳

銭新りら〜り〜と〜〜〜鳴き火桶

う茶

ら〜〜〜お〜後〜の〜然〜ぬ〜字〜ら〜花

糸渡

年〜よ〜ら〜た〜お〜あ〜や〜夫の〜も

司水

井小里〜〜風〜う〜ま〜る〜柳〜か

浅銭

梅通

山白丸目枝〜〜〜ちれ西〜ら〜六

〜見〜ら〜海〜の〜も〜さ〜あ〜〜ら〜ゆ〜

う棋

其もくは晴くは非くはるを

公非

市中一層書を唯もつり

通

拭掃く極先らうる月は名

通

引くも業も移る文業

通

と敷くはくもあくあはる神業早

通

あうりくもくもくもく

通

あまのいぬもあまのいぬもあまのいぬ

通

四十一

通

あまのいぬもあまのいぬもあまのいぬ

通

あまのいぬもあまのいぬもあまのいぬ

通

あまのいぬもあまのいぬもあまのいぬ

通

あまのいぬもあまのいぬもあまのいぬ

通

あまのいぬもあまのいぬもあまのいぬ

通

あまのいぬもあまのいぬもあまのいぬ

通

あまのいぬもあまのいぬもあまのいぬ

通

あまのいぬもあまのいぬもあまのいぬ

通

才

新緑の春ふらふらわたりし

しなぐく馬の足踏んぞや

御風も式日ら〜たり遠の

控〜あふささ研〜ささあ

新酒〜〜の〜留る〜〜

あつ〜〜ささあ〜〜お宿

万幸〜〜り実のちのち花小洋

伯母のあま見せ〜〜おき〜

通

想

本

通

想

本

通

想

あ〜〜れ御旅と〜〜ふふあ〜

小泉のら〜〜の〜〜水の流

〜〜あお舟の〜〜〜〜ら〜

洋〜〜あつ〜〜〜〜あ〜

能〜〜〜あま〜〜〜〜あ〜

〜〜群〜〜れ〜〜〜〜あ〜

〜〜〜〜〜あま〜〜〜〜あ〜

〜〜〜あま〜〜〜〜あ〜

本

通

想

本

通

想

本

通

撰

撰

とて伸とて遠くへ流るる水

〜流〜く〜る〜る〜る〜る水

各十二句

和泉

自らま〜く人乃余〜中〜る〜山

今と〜る〜る〜る〜る〜る

ほ〜と〜く〜る〜る〜る〜る

飛〜る〜る〜る〜る〜る水

棋

棋

五九子

日新臭女

可脱

哇声

初〜る〜る〜る〜る〜る

淀川

東好〜る〜る〜る〜る〜る

舟〜る〜る〜る〜る〜る

梅〜る〜る〜る〜る〜る

雨聲

史梅

物子

此物

横津

川〜る〜る〜る〜る〜る

梅〜る〜る〜る〜る〜る

石大

碓花

似柔
 花舞
 梅満
 都矣
 花多
 可春
 古舞
 籥人

丁
 曲集

大坂

昇左
 挙一
 月人
 知風
 皇御
 孝名

~~~~~もも入るき~~~~~月

公賦

~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~柳~~~~~

禾古

~~~~~おほき~~~~~あんとまの~~~~~

王谷

~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~

井資

~~~~~庵

~~~~~中~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~

瓢六

~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~

瓢泉

~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~

瓢仙

~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~

瓢水

~~~~~

~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~

瓢雲

~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~

瓢屋

~~~~~

~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~

瓢也

~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~

瓢川

~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~

瓢好

昔もあはれあはれ木の下よりささるる

夏山

半ふるもささるるぬゆやさるるささるる

如草

昔もあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

姑山

よもあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

仙居

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

丈云

紀のくさ

吹上りやあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

花鶴

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

薫名

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

糸外

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

妙雨

あはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

呉雪

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

香岳

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

里炭

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

木車

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

香露

体なき谷好かきり相ふりき

素化

御名々々中埃々々きぬり

五律

女名子四つり葉もつる候坊に

飲月

まきまきなれりしや葉もたふ

ふらと

とね入中連まきあき西葉

大虫

山水り其くおねるの神々々

女笑

くわす中解まき風好かきり

結綿

山城

都より中まきつる葉葉々々

玉骨

はるはる衣乃白ゆ中花々々

楚石

向より二相々々中花々々

夕夕

沿糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸

糸糸

あきまき次中はせハ山つ、き

牛車

とね福まき

搦まき山一ひらひら日らうおらあら

果若

縞らららららららららららら

空糸

ゆきしやうきさうりゆきりけり水

香石

山科中穀乃中乃車百合

誌岳

有接さく中乃乃乃乃乃乃乃

梅通

来々々々々々々々々々々々々々

孤柳

山歌と丸あ〜〜〜〜〜〜〜

若斗彦

あ〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

後藤

接引下穀一車乃乃乃乃乃

序節

張中

あ〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

折意

ゆ〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

如衛

降〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

令境

狩〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

吾角

人乃あ〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

泉奥

畑井を〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

芥舎

まゆ中筆一とて硯只利

成目

追り来りてとて筆文日中初とて

度地

筆中筆の筆中筆中筆中筆中筆

百可

多あつてや吹らるるを筆硯硯

然即

ふひとちと筆中筆中筆中筆中筆

昂雄

多細筆の筆中筆中筆中筆中筆

系度

海皇の筆中筆中筆中筆中筆

月川

筆中筆中筆中筆中筆中筆中筆

筆背

くろくくくくくくくくくくく

竹筴

鳴りておのちと筆中筆中筆

若海

大は筆中筆中筆中筆中筆中筆

紫文

筆中筆中筆中筆中筆中筆中筆

柏圃

我馬と筆中筆中筆中筆中筆

空成

松風や夕日お自ら砂 白

輝堂

のちと日ふやとてかたね筆中筆

松五

筆中筆中筆中筆中筆中筆中筆

頑水

あつちのうらやまのうらやま

赤浦

あつちのうらやまのうらやま

自長

あつちのうらやまのうらやま

於浦

あつちのうらやまのうらやま

芳丈

あつちのうらやまのうらやま

成徳

後の世のうらやまのうらやま

あつちのうらやまのうらやま

拾山

あつちのうらやまのうらやま

鳥岬

あつちのうらやまのうらやま

文海

あつちのうらやまのうらやま

花村

あつちのうらやまのうらやま

蓮如

あつちのうらやまのうらやま

一雅

うらやま

あつちのうらやまのうらやま

杉雨

あつちのうらやまのうらやま

芳泉

あつちのうらやまのうらやま

美因

伊豆のやまのつらととて馬の口
 かねてはたかきつらとつらとつらと
 川に流るるゆゑにたつたつらと
 まゝに流るるゆゑにたつたつらと
 まゝに流るるゆゑにたつたつらと
 まゝに流るるゆゑにたつたつらと
 まゝに流るるゆゑにたつたつらと
 まゝに流るるゆゑにたつたつらと

葉

ままに流るるゆゑにたつたつらと
 思はれはたつたつらと
 ままに流るるゆゑにたつたつらと
 思はれはたつたつらと
 ままに流るるゆゑにたつたつらと
 思はれはたつたつらと

沿各

藤人たつたつらとつらとつらと水
 思はれはたつたつらとつらとつらと
 ままに流るるゆゑにたつたつらと
 ままに流るるゆゑにたつたつらと

葉

船よりの人らゝる中よき水

水

舟一さきさき中人多き水

枝月尼

舟よりの水もよき水

てら女

舟よりの水もよき水

けり女

舟よりの水もよき水

梅楽

舟よりの水もよき水

崔石

舟よりの水もよき水

九起

舟よりの水もよき水

公成

何美

砂川よりの水もよき水

舟よりの水もよき水

崔石

舟よりの水もよき水

杜喃

舟よりの水もよき水

公成

舟よりの水もよき水

石

舟よりの水もよき水

美

終^ウ々も着く^ク身^ミも暮^クも^モあ^アら^ラわ^ワく
 指^サさ^サし^シく^クも^モ飲^クむ^ムの^ノま^マじ^ジく
 人^ヒ目^メな^ナき^キれ^レる^ルは^ハあ^アら^ラわ^ワく^クも^モあ^アら^ラわ^ワく
 梅^ウ梅^メあ^アら^ラわ^ワく^クも^モあ^アら^ラわ^ワく^クも^モあ^アら^ラわ^ワく
 笑^ヲケ^ケラ^ラあ^アら^ラわ^ワく^クも^モあ^アら^ラわ^ワく^クも^モあ^アら^ラわ^ワく
 上^ウら^ラと^ト神^{カミ}々^々あ^アら^ラわ^ワく^クも^モあ^アら^ラわ^ワく^クも^モあ^アら^ラわ^ワく
 白^{シロ}氣^キふ^フ上^ウら^ラと^トあ^アら^ラわ^ワく^クも^モあ^アら^ラわ^ワく^クも^モあ^アら^ラわ^ワく
 紙^{カミ}り^リつ^ツく^クも^モあ^アら^ラわ^ワく^クも^モあ^アら^ラわ^ワく^クも^モあ^アら^ラわ^ワく

成 喃 美 石 成 喃 美 石

思^{オモ}ひ^ヒく^クも^モあ^アら^ラわ^ワく^クも^モあ^アら^ラわ^ワく^クも^モあ^アら^ラわ^ワく
 遠^{トホ}く^クも^モあ^アら^ラわ^ワく^クも^モあ^アら^ラわ^ワく^クも^モあ^アら^ラわ^ワく
 城^{シロ}の^ノけ^ケと^トあ^アら^ラわ^ワく^クも^モあ^アら^ラわ^ワく^クも^モあ^アら^ラわ^ワく
 花^{ハナ}の^ノけ^ケと^トあ^アら^ラわ^ワく^クも^モあ^アら^ラわ^ワく^クも^モあ^アら^ラわ^ワく
 牙^{キバ}の^ノけ^ケと^トあ^アら^ラわ^ワく^クも^モあ^アら^ラわ^ワく^クも^モあ^アら^ラわ^ワく
 石^{イシ}の^ノけ^ケと^トあ^アら^ラわ^ワく^クも^モあ^アら^ラわ^ワく^クも^モあ^アら^ラわ^ワく
 山^{ヤマ}の^ノけ^ケと^トあ^アら^ラわ^ワく^クも^モあ^アら^ラわ^ワく^クも^モあ^アら^ラわ^ワく
 山^{ヤマ}の^ノけ^ケと^トあ^アら^ラわ^ワく^クも^モあ^アら^ラわ^ワく^クも^モあ^アら^ラわ^ワく
 山^{ヤマ}の^ノけ^ケと^トあ^アら^ラわ^ワく^クも^モあ^アら^ラわ^ワく^クも^モあ^アら^ラわ^ワく
 山^{ヤマ}の^ノけ^ケと^トあ^アら^ラわ^ワく^クも^モあ^アら^ラわ^ワく^クも^モあ^アら^ラわ^ワく

成 喃 美 石 成 喃 美 石

ふり事々ももすゝ綴ひく九十九里

目たささるんしほ神ささ

あさささささささささささささささ

十九ヤ二十ちささささささ

凡くささささささささささささ

とささささささささささささ

あささささささささささささ

きさささささささささささ

成 喃 石 成 喃 石 美

美さささささささささささ

らさささささささささささ

あさささささささささささ

あさささささささささささ

あさささささささささささ

あさささささささささささ

右 各 九 九

成 喃 石 美 喃 成

餘頁

経の中少くもあつては

大虫

はくく扇乃とくりま

何羨

あふ少あをるも啼やむ月も

公成

卒くくくくくくく

謝風

あつてあつてあつて

雀石

あつてあつてあつて

杜嘯

北記供養集終

昭和六年四月廿七日

あ生市、轉住の障記を忘るとしん

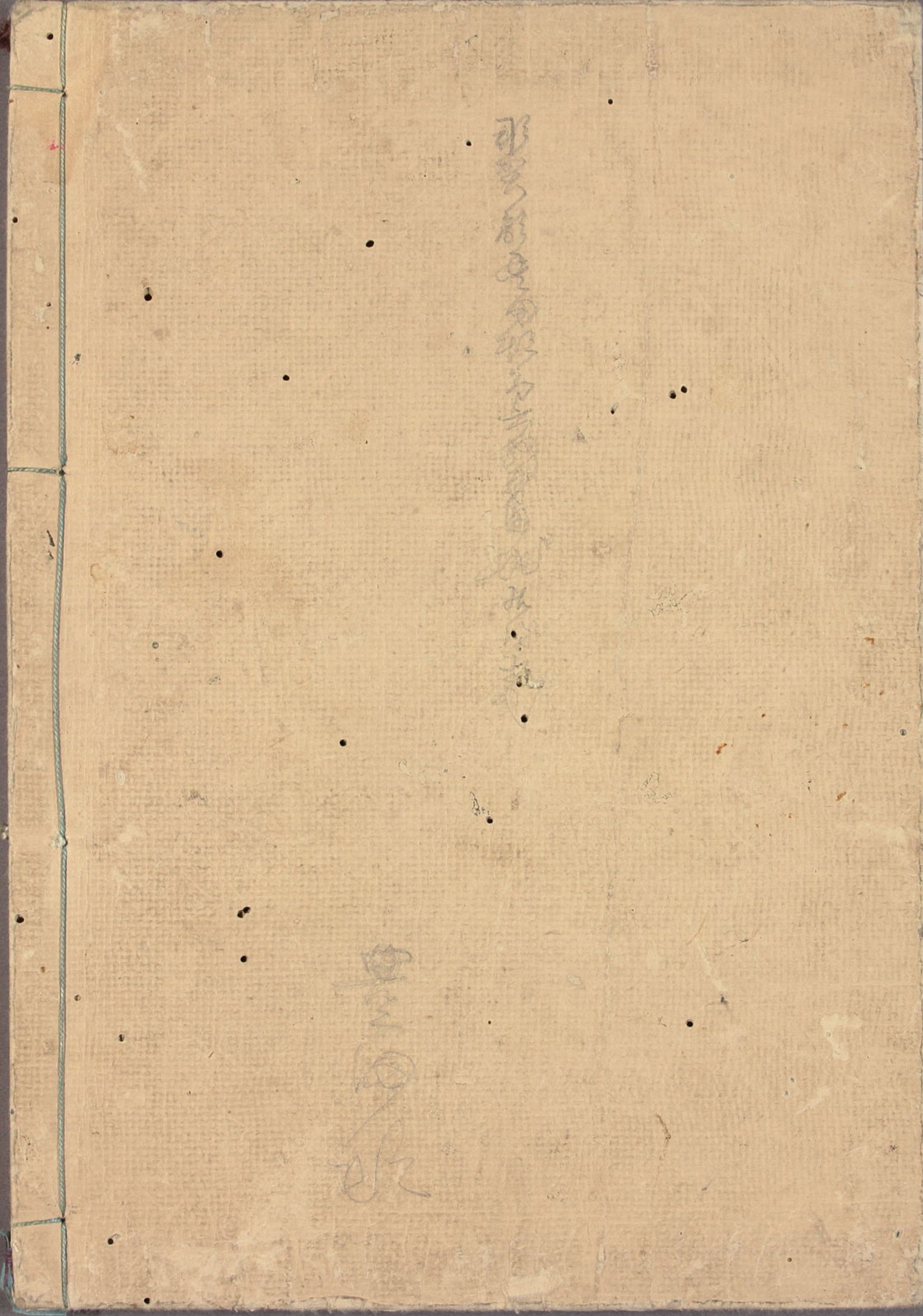
蕉門御摺物所

由臣又次才出末及上

京四條寺町東入御旅町

湖雲堂近江屋利助





Vertical handwritten text in a cursive script, likely Chinese characters, running down the center of the cover.

Faint handwritten markings or characters in the lower-left quadrant of the cover.